

植栽にみる鎌倉の観光景観の変容に関する研究

A Study on the Tourism Landscape Changes of Planting in Kamakura

石川柚希¹, 枝川祥子¹, ○谷川将弘¹, 押田佳子², 天野光一², 飯塚陽生¹
Yuzuki Ishikawa¹, Sachiko Edakawa¹, *Masahiro Tanigawa¹, Keiko Oshida², Koichi Amano², Yousei Iizuka¹

Abstract: In this study, we researched plant landscape compared with modern and current of Kamakura. Study area were 4 place : *Tsurugaoka Hachimangu*, *Kotokuin*, *Hasedera*, *Shichirigahama*. As results, we cleared that semi-public space as temples and shrines were changing flowery plants from old plants. Public space as road was the same. The other side, succession of seashore communities made progress at nature place. Moreover, *Cycas revoluta* was lost that there was it before at *Kotokuin*. Conclusion, there were factors that the culture of *Bushi* and there is promoting urban tourism were lost.

1. はじめに

江戸時代以降の鎌倉は、古都としての歴史に加え、山と海に囲まれた自然豊かな景観を活かし、近世有数の観光地として発展してきた。しかしながら、明治以降、鉄道の敷設や海水浴場開設に伴う別荘地化など、近代化と相俟って鎌倉の観光形態は大きく変化し^[1]、これに伴って自然景観も大きく変化したと考えられる。以上の考えのもと、本研究では自然景観の基盤要素となる植栽に着目し、鎌倉の代表的な観光地の景観の変容を古写真と現況との比較より捉えることを目的とする。

2. 研究方法

(1) 対象地の選定—本研究では、「鎌倉市図書館開館百周年記念 絵葉書でみる鎌倉百景」^[2]より、鎌倉を代表とする観光名所として紹介されている古写真の撮影地を対象とした結果、鶴岡八幡宮、高德院、長谷寺、七里ヶ浜の4地点を選定した(Figure1-4)。

(2) 分析方法—まず、上記で選定した古写真と同じ構図の現況写真を撮影した。次に、両者の植栽に着目し、その観光景観を比較することより、変容を把握した。著しい変化がみられた地点については、社寺等の管理者に問い合わせ、詳細を把握した。

3. 結果

Table1に植栽にみる観光景観の比較結果を示す。

鎌倉を代表する観光地である鶴岡八幡宮はその好広域さ故に、撮影地が境内と参道の2地点みられた。

それぞれの変容に着目すると、「①石段前」の左側には、大きなイチョウが存在感を示しているが、2010年の台風で倒壊したことにより「A」ではみられない。同様に「①石段前」右下にみられたソテツは、

現在カラタネオガタマノキに置き換わっている。

参道では、「②三ノ鳥居」にみられるソメイヨシノやツツジ類が「B」においてもみられる。これらは、1917年に鎌倉同人会によって植栽されたものであり^[3]、約1世紀に亘り継承されていることを捉えた。

「③二ノ鳥居」においても、参道にみられたマツの並木の多くが現在は失われている。

鎌倉大仏で有名な高德院では、「④鎌倉大仏」で広範囲にみられたアカマツの高木林、左前にみられたソテツが、「D」では消失していた。また、かつては大仏の裏にサクラが植栽されていたが、1958年の回廊設置の際に何本かが伐採された。

長谷寺では、人為的な植栽の変化は認められなかったが、「⑤長谷寺の参道」では道路から確認できた本堂が、「E」では樹木の成長によってほとんど見えなかった。

七里ヶ浜では、「⑥江ノ電沿線」でみられた海岸草原が、「F」にみられる道路の拡張によって失われたことを捉えた。また他の写真では、七里ヶ浜の後背地形が関東大震災による崩落や、照葉樹林が遷移によって高林化が進行した様子を捉えた。

4. 考察

本研究の調査結果より、植栽より捉えた観光景観の変容は、人為的な変化と自然的な変化に2分される。まず人為的な変化についてみると、鶴岡八幡宮や高德院の事例でみられるように、マツやソテツは失われやすく、その一方でサクラは植栽されやすく、かつ残りやすい傾向が見られた。この要因には、近代に鎌倉が別荘地化したことにより、別荘族がまちなみの植栽に華やかさを求めたためと考えられる。

1 : 日大理工・交通・学部 2 : 日大理工・交通・教員

Table1. Comparison of Modern and Present Kamakura

		写真の比較		写真の比較	
		明治末－大正初	現在	大正－昭和初	現在
境内	高徳院	 ①石段前	 A	 ④鎌倉大仏	 D
		<ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年の台風により、イチョウが倒壊した。 ソテツに代わり、カラタネオガタモノキが植栽された。 【その他の場所】 マツ林、階段下の低木が失われた。 		<ul style="list-style-type: none"> アカマツ、ソテツを含む植込みがなくなり、階段の幅が広がった。 【その他の場所】 1958 年に回廊を設置したため、大仏の背後にあったサクラが一部伐採された。現在、大半は遷移によって他の樹種に代わっている。 	
鶴岡八幡宮	参道	大正－昭和初	現在	明治末－大正初	現在
		 ②三ノ鳥居	 B	 ⑤長谷寺の参道	 E
		<ul style="list-style-type: none"> 明治 20 年頃にマツ・ウメが植えられていたが、大正 6 年にサクラに植えかえられた。 三ノ鳥居に狛犬が置かれた。 		<ul style="list-style-type: none"> 門前のマツが成長したため、道路より本堂が見えなくなった。 本堂周辺に存在したイチョウの木は、成長している。 	
		明治末－大正初	現在	明治末－大正初	現在
		 ③二ノ鳥居	 C	 ⑥江ノ電沿線	 F
		<ul style="list-style-type: none"> 明治 20 年頃にマツ・ウメが植えられていたが、大正 6 年にサクラに植えかえられた。 二ノ鳥居に狛犬が置かれた。 		<ul style="list-style-type: none"> かつては、海岸草原が道のそばまであったが、現在は道が埋め立てられている。 関東大震災により、七里ヶ浜の山林は削れたかわりに、樹木は増えた。 	

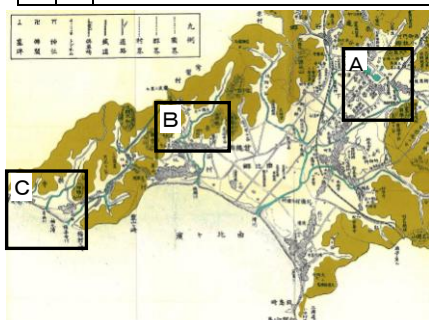


Figure1. All Kamakura Area (Original map by Omori^[4])



Figure2. Central Kamakura Area



Figure3. Hase Area

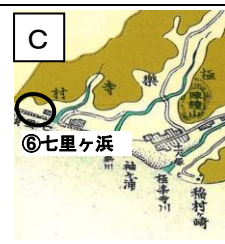


Figure4. Western Kamakura Area

実際に段葛のソメイヨシノは別荘族を中心に発足した鎌倉同人会により植栽されている^[3]。これが、今なお観光の目玉として残っていることより、観光景観として地元にも観光客にも受け入れられた結果といえる。また、ソテツは漢字では「蘇鉄」と書くことで刀を連想させることより、かつては武家の象徴の樹木であり、近代の西洋風のを好む風潮に合わないこと、華美でないことにより排除されたものと考えられる。また、七里ヶ浜の事例のように道路の拡張によって消失したのものもあった。これらはいずれも近代化に伴う観光の拡大、あるいは変容が影響していると考えられる。一方で、自然的変化では、七里ヶ浜や長谷寺では森林遷移が進行しており、自然豊かな観光景観を維持しているとみられる。

5. まとめ

道路のようなパブリックスペースや社寺などのセミパブリックスペースでは、人為的な植栽変容が大きく、近代になり観光向けの華やかな空間になることを捉えた。

一方海岸のような自然空間においては、自然の影響をうける可変的な場所であるため、多くの場合は元々自然にある樹木が成長するといえる。

6. 参考文献

- [1] 清永修平, 横内憲久, 岡田智秀, 押田佳子, 瀬畑尚紘, 下田美羽: 「鎌倉観光からみた都市構造の変容に関する研究—(その1) 近代以降の都市整備による影響に着目して—」, 日本大学理工学部学術講演会講演集, CD-R, 2010 年
- [2] 鎌倉市教育委員会, 鎌倉市中央図書館: 「鎌倉市図書館開館百周年記念 絵葉書でみる鎌倉百景」, pp. 9, 20, 21, 23, 31, 33, 2011 年
- [3] 鎌倉同人会: 「鎌倉同人会 50 周年史」, pp. 36, 1965 年
- [4] 大森金五郎: 「鎌倉案内記」, 村田書店, 1925 年